

袋とじ

新体操の五輪金メダル美女「全裸で大開脚」動画

独占掲載

死を覚悟したショーケン 涙なしには読めない遺書

モノクロ

伊藤蘭 41年目の『微笑がえし』 カラー 松原智恵子に憧れて

愛娘が初告白

父・平尾誠二と過ごした「最後の日々」

スクープレポート

ホンダ内紛 社内でいま起きていること

全国保存版カラー

大人の
餃子
この50皿

週刊現代



事故を起こした当事者たちの告白

高齢ドライバーに告ぐ、これは他人事じゃない

医療健康大特集

長生きにこだわると、
幸せが逃げていく

特別定価500円

6 1

Weekly Gendai
2019
June

巻頭
大特集

7月1日から 相続の法律が大改正

あなたのこれからの
人生とおカネに大きな影響が

池江璃花子のいま、萩野公介のいま

新シリーズ

ようこそ、おとなの性医学教室へ

袋とじカラー
見たことのないポーズが
次々と

新体操の五輪金メダル美女
「全裸で180度大開脚」動画

いま何をすべきか、何をしなくていいのか

自宅・銀行口座・生命保険の「名義変更」
得するテクニック、損するタイミングを確認する

あと1カ月で老親、義理の老親と相談して
準備しておくべき書類、清ませておくべき手続き

おしどり贈与、遺留分侵害額請求、持ち戻し免除 ほか
このタイミングで検討しておいたほうがいいこと

ぴんぴんころりのコツは
病院に行かない、検査をしない
すーっと自然に死にたいなら、行かない我慢と努力を
矢作直樹「正常な数値は人によって違う」

87歳の元通産官僚も「人殺し」に

者たちの告白

一に告ぐ

事じゃない」



4月に東池袋で発生した事故の現場。飯塚氏のプリウス（写真奥）は大破した

ゴールド免許だったのに

「交通事故のニュースで、加害者は「何が起きたかわからない」と話します。皆さんは「わからないはずないだろ」と思うでしょうが、いまの私にはその気持ちが痛いほど理解できます。本当に何も覚えていないのです」

茨城県に住むAさん（81歳・女性）は、昨年2月下旬、ショッピングセンターの敷地内で、運転する軽自動車で60代と40代の女性、歩行者2人はねてしまった。

Aさんは涙を目に浮かべながら、自らの過ちを悔やんだ。

「施設の屋上にある駐車場に入るため、右折待ちの坂道の途中で停車したことは覚えていません。前には2台の車がいて、そのうちの1台が曲がって駐車場に入った後、時速20kmほどのスピードで進みました。そこで前の車にぶつかりそうになって

事故を起こしてしまった。

Aさんは現行犯逮捕されたが、高齢もあり、すぐに保釈された。その後、在宅起訴され、執行猶予付きの判決を受けた。

「被害者お二人のうち、60代の女性の方は脳挫傷を負ってしまい、いまま治療なさっています。無事に回復してほしい。

その被害者の方にはまだ会っていません。まずお電話したのですが、ご家族の方から「今後は電話しないでほしい」と言われてしまいました。私は静かにすることしかできません。ご家族の方からは厳しい言葉をいただきました。この事故は私に興味である絵を描くための材料を買いに行ったときに起こってしまった

毎日のように高齢者による交通事故が発生し、世間を騒がせている。このニュースをシニア世代や老親を持つ家族は、呆然と眺めるだけではいけない。真剣に免許返納を考えるきっかけにするときだ――。

78歳の元東京地検特捜部長も、 事故を起こした当事

「高齢ドライバー

これは他人

ものです。そのため、「趣味くらいで他人の人生を狂わせて」と。被害者の方のご主人は70歳で免許を返納されていたそうで

80代でも交通刑務所へ

決断するならば、とにかく早いほうがいい。

10連休明けの5月7日～9日の3日間だけで、東京都内で1200人以上が運転免許を返納した。これは普段の2倍の数だ。

きっかけは4月19日、東京・東池袋の交差点で発生した痛ましい事故。元通産官僚の飯塚幸三氏（87歳）が運転するプリウスが暴走し、8人の歩行者らを次々とはね、松永真菜さん（31歳）と長女の莉子ちゃん（3歳）が死亡した。原因は車が縁石に乗り上げて飯塚氏がパニックとなり、アク

す。それもあり、ご家族からは「80歳なのになぜ返納しなかったのか」とも言われました。私には返す言葉もありません」

セルとブレーキを踏み間違えたことだと思われる。

飯塚氏は東京大学工学部卒で、通産官僚の技術職トップと言われた工業技術院長まで上り詰めた。退官後は大手農機メーカーのクボタで要職を

歴任。00年に副社長を退任すると、東京・板橋区の新築分譲マンションで妻と二人、趣味の音楽鑑賞を楽しみながら悠々自適の生活を楽しんでいった。体力の衰えから、80代後半はゴルフから遠ざかっていたが、車の運転は止めていなかった。

元千葉県警交通事故捜査官で交通事故調査解析事務所代表の熊谷宗徳氏はこう指摘する。

「東池袋の現場に行く」と、少し縁石に乗り上げ、そこから加速していることがタイヤ痕から分かりました。縁石に乗り上げた状況を瞬時に判断できず、ブレーキではなく、いつも行っているアクセルを踏む行為に繋がってしまった可能性が高い。

高齢者は自分の意識より足が上がっておらず、ブレーキを踏んだつもりでアクセルを踏んでしまうこともありえます。さらにブレーキを踏んでいくはずなのに速度が上がっている状況もすぐに理解できない。通常、危ないと思っただけでブレーキを踏むまでは0.7から0.5

70過ぎて、80過ぎて運転している人、
その家族は必読

「高齢ドライバーに告ぐ、これは他人事じゃない」

8秒だと言われています。それが高齢者の場合は1秒以上もかかってしまうと、それだけに事故が起ころいやすい傾向にあります。飯塚氏は怪我を負い、現在は入院中。自宅に人氣はなく、自宅の電話の電源も切られたまま。逮捕はされておらず、書類送検の後、在宅起訴される見通しだ。交通事故に詳しい犯罪被害者支援弁護士フォーラム事務局長の高橋正人弁護士が語る。「罪状は過失運転致死傷罪。お二人が亡くなっていることを鑑みれば、2年から3年の実刑になる可能性があります。以前

ならば、死亡者が一人で、加害者が80歳前後の場合には、執行猶予がつくのが通例でした。しかし、高齢ドライバーによるアクセルの踏み間違え事故が

元特捜部長の主張

昨年2月には、かつて東京地検特捜部長も務めた大物弁護士、石川達敏氏（当時78歳）が運転する高級車・レクサスLS500が暴走する事故が起きていた。歩道に立っていた37歳男性がはねられて死亡。車を降りる際に誤ってアクセルを踏んだことが原因であると石

川氏は過失運転致死罪で在宅起訴された。だが、石川氏側は裁判で「事故は自らの過失ではなく、車の異常」と無罪を主張していく方針だという。「被害者家族とは昨年6月に示談が成立しています。石川さんは弁護士の仕事は、いまはほとんどしていませんが、毎日、

事務所に通勤。免許はまだ返納していないものの、バスと電車を利用していらっしゃるそうです」（知人）
本誌は石川氏を直撃取材し、自らの事故についての見解を聞いた。「私が左足でアクセルを踏んだとされていますが、絶対に踏んでいないというのが私の主張です。右足がドアに挟まったまま、左足で300m以上もアクセルを踏み続けることは考えられません。私はこれまで年間2万km以上運転してきて無事故でした。ただ、判決次第で運転免許は返納します。詳しくは話せませんが、裁判ではとにかく体

が、裁判ではとにかく体験に基づいて事実関係を克明に説明することに尽きます」（石川氏）
事故の詳細はこれから法廷で明らかになっていくが、飯塚氏、石川氏とともに頭脳明晰で、そして自らの運転に自信を持っていた。そんな彼らの車が、未来ある若者を「轢き殺し」てしまった。
高齢者の運転能力を研究する山梨大学大学院教授の伊藤安海氏が語る。「高齢ドライバーを調査すると、本人の運転能力の自己評価と実際の運転能力が反比例していることが多い。つまり自己評

霊芝ご愛飲の皆様におトクなニュースです！

高品質 飛騨霊芝

よいものだからこそ長く愛飲してほしい、そう考えたから、この価格が実現しました。三十五年以上にわたる科学的研究、栽培実績の成果を結集したのが「飛騨霊芝」です。その品質は国内・海外で高く評価され、研究用霊芝として採用されています。※「飛騨霊芝」は商標です。

だから長期愛飲者こそ、自信を持ってお勧めします。

1kg 10ヶ月分 30,000円
500g 17,000円 (各税込 / 送料無料)

ご注文・お問合せ

■ インターネット (24時間受付)
<http://www.dai-1-yakusan.co.jp/>
飛騨霊芝 第一薬産

■ お電話
0120-32-0963

※ 容・きざみ・粉末等ご要望に応じます。
※ 明封前、着後7日間は返品可(返送料申込者負担)

第一薬産株式会社
〒506-0003 岐阜県高山市本母町59



石川氏が運転するレクサスは、最後は金物店に突っ込んだ

価を信じることは非常に危険なのです。危惧されるのは、免許を返納される方が増えていますが、それは普段から慎重に運転している自己評価の低い高齢者が大半だということ。事故を起こしやすい自己評価の高い方の返納は進んでいない」

自分だけは大丈夫と思っている人ほど事故を起こしてしまう。

「事故後の事情聴取で警察官に『なぜ踏み間違えたのか』と聞かれましたが、答えようがなかった。その瞬間のことを本当に覚えていないのです」

苦痛に満ちた表情で本

誌にそう語る、埼玉県在住のBさん（73歳・男性）も高齢者による事故のニュースをまったくの他人事だと思っていたという。彼は16年12月、コンビニの駐車場で、アクセルとブレーキを踏み間違え、車が店のガラスを破り店内に突っ込む事故を起こした。その際、レジと車に挟まれた10代の男性店員が重傷を負った。Bさんが続ける。

「これまで警察のお世話になるような事故を起こしたことはないです。私はそのコンビニで毎日のように買い物をしていましたから、駐車に戸惑ったこともありませんが、自分でも『なぜ?』という思いがいまも消えません。

自分では実年齢よりも若いつもりでいました。でも、いま思えば、その日の体調によっても、判断力が鈍くなることがあったのかもしれない。Bさんにはコンビニ側

から休業補償も含めて約1100万円もの請求があったという。さらに怪我を負った被害者には治療費など約270万円の支払いを行った。

「対人対物がともに無制限の自動車保険に加入していたので、被害者の方への補償の面で金銭的にご迷惑をかけることはありませんでした。これは

早く返納していれば……

くどうちあき脳神経外科クリニック院長の工藤千秋氏が断言する。

「たとえ認知症でなくても、運転能力の低下は避けられないので、高齢者は免許を返納すべきなのです。神経の伝達のスピードが落ちていく。そして筋肉自体の反応も遅れる。だから、ブレーキを踏まないといけない状況でも、1〜2秒遅れるんです。脳が元気であっても筋肉の老化、骨の老化が事故につながります。」

本当に不幸中の幸いでした。もし保険が不十分だったらと考えるだけでゾッとします。ただ当然のことですが、怪我をした店員さんには許してもらえませんでした。お見舞いに行つたのですが、一切口もきいてくれなかつた。こちらとしてはとにかく詫びるしかなかつた。辛い時間でした……」

また、若い人と比べて高齢者の方はパニックになりやすい。それは動脈硬化が原因で、老化現象なのです。だからいくら認知症のテストが合格であったとしても、ブレーキとアクセルを隣発的に踏み替える力が落ちていくと感じたら、自主返納を考えてほしい」

前出の伊藤教授も言う。「車庫入れが手間取るようになった、カーブで対向車線にはみ出す、左車線ギリギリを走ってしま

う、そうした場合は、車の位置を把握できておらず、運転能力が確実に落ちていきます。同様に歩行者や標識の見落としを同乗者に指摘される機会が増えてきた方も運転能力が低下していますので、免許返納のタイミングでしよう」

冒頭のAさんはいま、後悔の日々を送っている。

「事故の後、免許は返納しました。もともと更新の時期に合わせて、昨年のうちに免許を返納するつもりだったんです。もつと早く返納していれば……この年齢でこんなことになるなんて……。でも、私はまだ生きなくてはいけない。主人が認知症で施設にいるんです。いまの私にできることは被害者の方が回復するよう毎日、仏様をお願いすることだけです」

人生の最後を穏やかに過ごすために、なにをすべきか。「死ぬまで運転したい」は叶わない――。